

有明海奥部における貧酸素水塊の発生状況（第3報）

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所
有明海・八代海グループ

有明海奥部底層の溶存酸素濃度の変動（9月）

有明海奥部の観測点 T13（国営干拓沖）における底層の溶存酸素（飽和度）は、9月1日から2日まで貧酸素状態（溶存酸素飽和度40%未満）でした（図2、上段）。特に、1日は溶存酸素飽和度が10%を下回ることもありました。その後は大きく変動し、貧酸素状態と飽和度が高い状態を繰り返しながら、5日から11日は上昇傾向となりましたが、11日以降は下降傾向となりました。14日から15日は継続的に貧酸素状態が観測されたものの、15日に接近した台風14号の影響により、溶存酸素飽和度は高い状態に回復しました。

沖合域の観測点 P6（沖神瀬西）の底層の溶存酸素は、9月1日から11日まで継続的に貧酸素状態が観測され、4日までは溶存酸素飽和度が5%を下回ることもありました（図2、中段）。その後、12日と14日に一時的に貧酸素状態から回復することもありましたが、14日まで概ね貧酸素状態が継続しました。台風14号が接近した15日以降は、貧酸素状態から回復し、継続的に高い溶存酸素飽和度が観測されました。なお、沖合域の観測点 P1（大浦沖）の溶存酸素は、機器不調のため欠測となりました（図2、下段）。

筑後川からの淡水流入は、9月2日から4日まで日平均流量（瀬ノ下）が200 m³/s を越えましたが、それ以外は大きな流入はありませんでした（図3）。沖神瀬西の風速は、台風14号の影響により、9月15日に9 m/s を記録し、9月17日は一時的に10 m/s を大きく越えました（図4）。

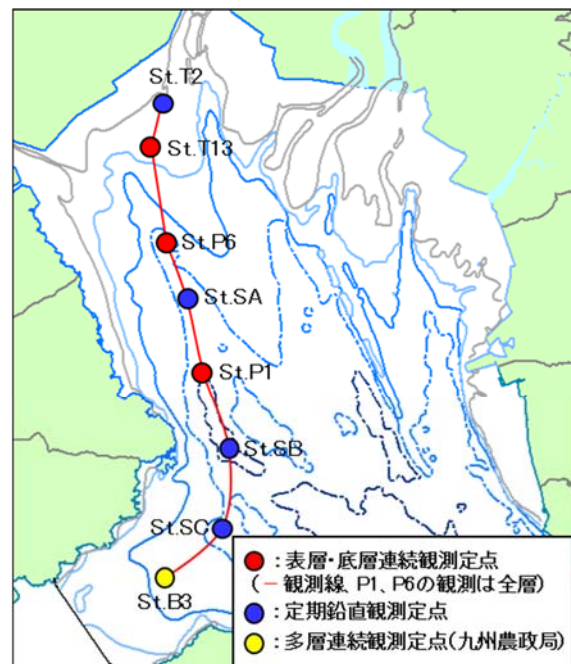


図1. 有明海奥部の観測点配置図

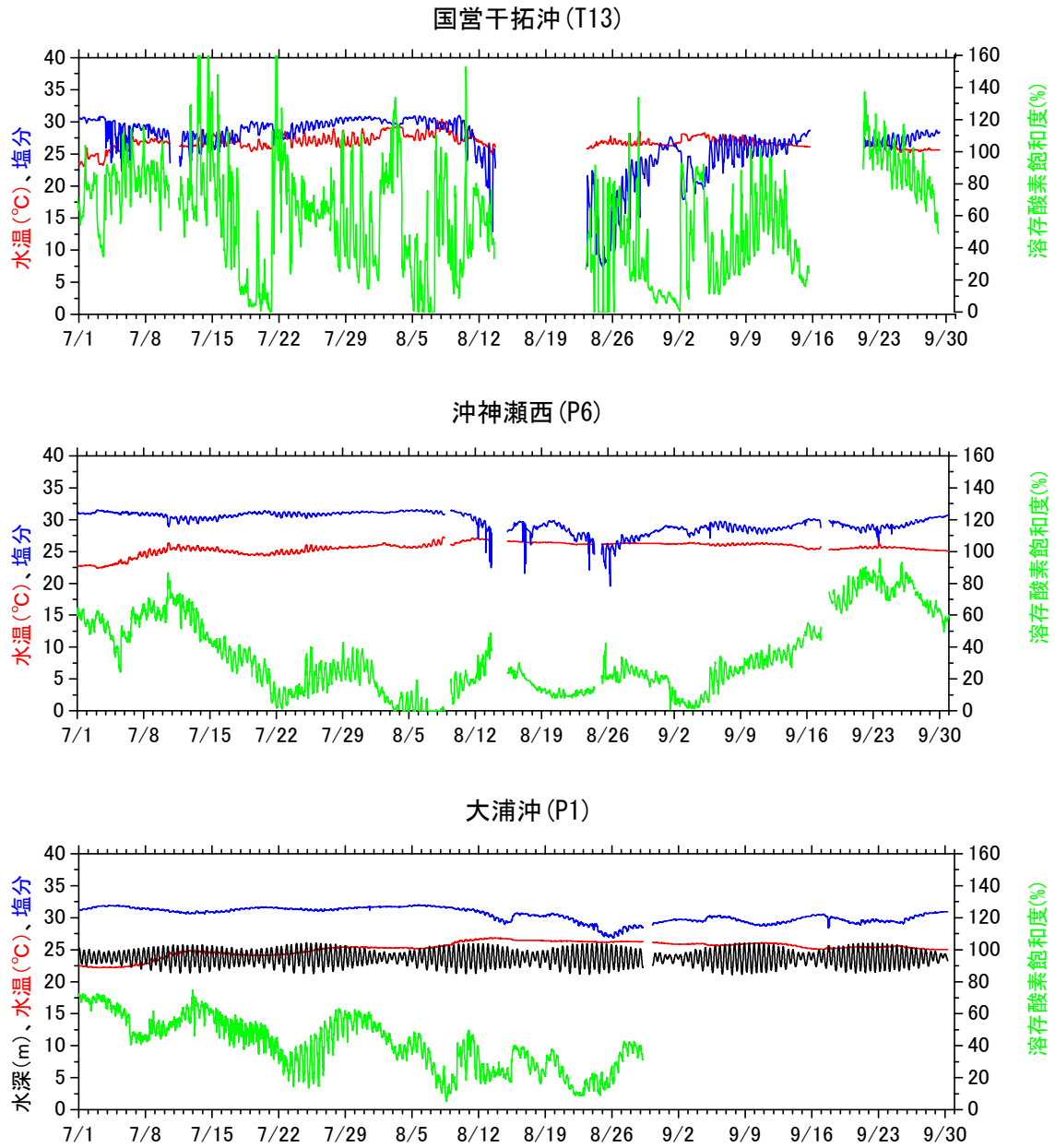


図2. 2021年7月から9月の国営干拓沖(T13)、沖神瀬西(P6)、大浦沖(P1)における底層(海底上20cm)の水温、塩分、溶存酸素飽和度の変動

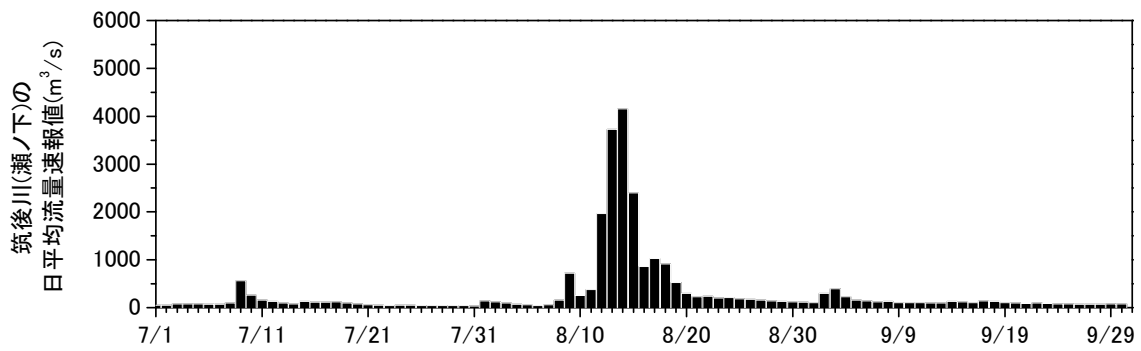


図 3. 筑後川流量の経時変化(筑後川ダム総合管理事務所、速報値)

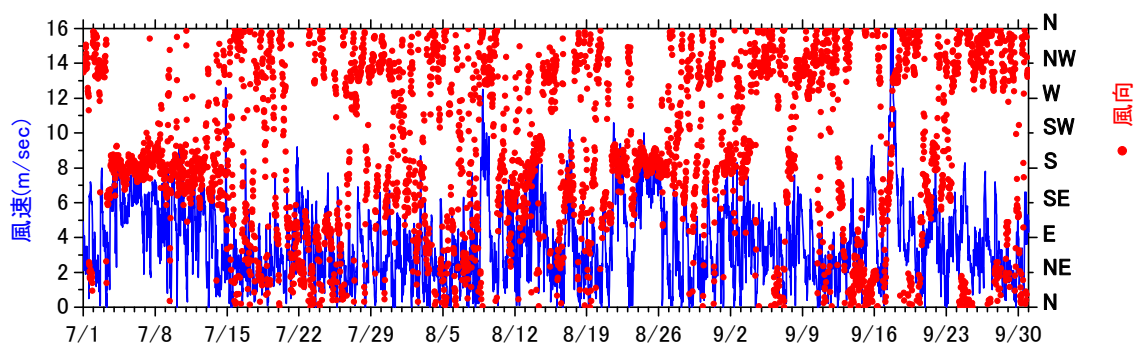


図 4. 沖神瀬西 (P6) における海上風(海上 3m) の風向・風速の経時変化